



# 白聖はくあ 第4号 令和3年7月5日発行



## 《期末考査・模擬試験のその後に》 【基礎知識の重要性】

1学期期末考査・7月進研記述模試が終了しました。試験問題を通して、自分の弱点や強みがわかってきたのではないのでしょうか。試験問題は ①習得 ②活用Ⅰ ③活用Ⅱ と分類することができます。詳しく見てみましょう。

- ①習得・・・基礎となる知識・技能とその活用方法を理解しているか。
- ②活用Ⅰ・・・知識・技能を活用して、基本的な思考・判断ができ、それを的確に表現できるか。
- ③活用Ⅱ・・・知識・技能を複合的に用いて高度な思考・判断をし、かつ簡潔に表現できるか。

という目的のもとで出題されています。大学入試の本番ではこの3つのレベルに加えて、超難問（細かい知識・マニアックな知識を要求する問題や高校履修範囲を超えた知識・定理などが前提となっていてあらかじめ知識を有していないと解答が難しい問題など）と呼ばれるものも稀に出題されます。ここで注意しなければいけないのが、「超難問が解けなければ大学に合格できないと誤解してしまう」ことです。

難関大学と呼ばれる大学を含め、多くの大学では高校履修範囲の基礎的・標準的な知識とそれを前提とした一定の分析力、論理的思考力・表現力が備わっていれば、合格することは十分に可能です。①習得レベルの問題を疎かにして、基礎基本の土台が構築されないまま②活用Ⅰレベルや③活用Ⅱレベルの問題ばかりに取り組んでいては危険です。

①習得レベルの基礎基本が身につけていないと、解けない問題に出会ったとしても「何がわからないのか分からない」といった状態に陥ってしまいます。こうなってしまうと、次に繋げることが難しくなってしまいます。①習得レベルが身につけていれば、仮にその場で解けなかったとしても、「自分には何が足りなかったのか」「何をすれば解けるようになるのか」「次に解けるようになるためにこれをやろう」といったように、自分自身で考え

て行動することができます。難しい参考書や問題集をやる前に、とにかく①習得レベルを徹底的に取り組むことです。基礎基本の理解がないまま難易度の高い問題を演習したとしても、「基礎を土台とした積み重ねた論理」というものに気付くことすらできず、それぞれの知識が関連付けられずに丸暗記になってしまいます。

この①習得レベルは、自分自身の努力次第でいくらでも向上させることができます。具体的にどのようなことを努力すれば良いのかを考えていきましょう。

まず第一に「授業を大切にする」ことです。授業では教科書や参考書を用いて「基礎基本の知識・理解」を定着することを目的の一つとしています。授業50分間の集中力を高め、濃度を高め、絶対に習得するんだという強い気持ちを持って授業に臨みましょう。特に苦手だと思い込んでいる科目に関しては、基礎知識を地道にコツコツと習得していきましょう。苦手科目の原因は、基礎基本に関する理解不足や習得のモレであることが多いのです。

第二に、「学びの本質は自学自習」であるということです。授業で先生の説明を聞いて「わかった状態」になっただけでは成績は向上しません。「わかった状態」から「できる状態」になるためには、自分自身で問題を熟読し、手を動かし、頭を使って悩むことが絶対に必要です。スポーツで例にとると、プロ野球選手やサッカー選手の試合を見ただけで、急に球速が上がったり、シュートの精度が高くなることはないですよね。先生も自分自身の経験として、競技ダンスをしていたときに、プロの先生から習っているときはできていたことが、次の日に自分だけでやってみるとできなくなっていることがほぼ毎回でした。習ったことを思い出しながら、自分自身で何度も練習することで新たな技術を身につけることができました。科目の学習もスポーツも本質は同じだと思えます。自分自身で学ぶ姿勢を大切にしていきましょう。



第三に、「できない自分と向き合う」ことです。

初めて学んだことをすぐにできる人はほんのごく一部です。多くの人はできるようになるまで鍛錬を重ね、努力の末に成果を手に入れます。できない自分を受け入れるのは時には苦しかったり不安になりますが、この苦しさや不安が成長への糧となります。時に失敗は、自分の目指す場所に近づかせてくれる大きなチャンスにもなってくれます。大切なのは失敗を失敗のままにしないこと。失敗を成長の糧とすることです。授業でも何度か話していますが、皆さんは伸びしろの塊です。何事も捉え方次第です。「どうして解けなかったのか」「何を知っていれば解けたのか」ということを分析し、前向きに考え、どんな状況に直面したとしても、「自分はこの機会を活かして成長する！上手くいく！このままでは終わらせない！」と信じて行動していきましょう。

自分や他者、学問へ真剣に向き合う時には、自分の無知さに目をそらすことなく、知ったかぶりをせず、面倒くさがらず、明るい未来を信じて、前へ進んでください。自分で取り組む姿勢で、自分の人生を決めてほしいです。行動を起こすのは、今です。



pixta.jp - 76276496



pixta.jp - 61792268

最後に、「よく食べ、よく寝て、よく笑う」ことです。何をしても健康であることが必要不可欠です。規則正しい生活リズムをとることで、健康な状態を保ち、よく食べて脳に栄養を与え、よく寝て心身に休息を与え、よく笑うことで全身を活性化させていきましょう。



## 【基礎から応用へ】

実際の大学入試問題では①習得のみを単体で出題することは少なく、また、出題したとしても多くの受験生が正解するため、そこで差を作ることができません。では一体どのように出題してくるかという点、

- ・②活用Ⅰレベル単体の問題
- ・③活用Ⅱレベル単体の問題
- ・①と②を組み合わせたレベルの問題
- ・②と③を組み合わせたレベルの問題などのように

出題されます。

3年生の中で、基礎基本が定着してきたと実感できた人は、大学入試問題に挑戦してみましょう。過去問演習を通じて基礎基本的な知識が、どのように使われているのかを知ることで本質的な理解ができます。また、自分自身の知識の定着度を知ることができるとともに、志望大学が受験生に要求するレベルや出題傾向を把握することもできます。もちろん1・2年生の意欲的な人も挑戦してみてください。



pixta.jp - 34216577

## 《進路行事について》

### 【第1回進路検討会（3年生）】

3学年生徒の学業成績（第2・3回実力テスト・第1回校内模試、外部模試の結果等）や進路志望先を正確に把握し、今後の集団としての指導のあり方や、生徒個々への具体的な指導のあり方について、教員間で共通理解を図りました。



pixta.jp - 23933645

